

### **3. 北海道釧路市**

# 1. 地域概要

対象地域	北海道 釧路市 阿寒温泉エリア			
申請主体	特定非営利活動法人阿寒観光協会まちづくり推進機構			
計画名	阿寒温泉エリアにおけるオーバーツーリズム解消の「実証モデル」実施計画			
観光客データ		平成31年	令和5年	令和6年
	入込観光客数(千人)	1,527	1,222	1,208
	- 宿泊者延数	525	423	412
	- 訪日外国人宿泊者延数	98	92	105
地域の特徴・観光資源等	<ul style="list-style-type: none"> <li>阿寒湖温泉は北海道東部にある阿寒摩周国立公園内に位置し、阿寒湖の南側に温泉街がある</li> <li>国の特別記念物「マリモ」と国内最大の「アイヌコタン」</li> <li>阿寒湖周辺には手つかずの原生自然と釧路湿原国立公園があり、豊かな自然で楽しむアクティビティとアイヌ文化の体験ができ、滞在型の長期宿泊が可能な地域</li> <li>欧米の富裕層に人気の「アドベンチャートラベル(体験型観光)」構築を進め高付加価値な滞在プログラムづくりに取り組んでいる</li> </ul>			
協議体制	<b>協議の場</b>			
	阿寒観光協会まちづくり推進機構 オーバーツーリズム事業協議会			
	<b>参加者</b>			
	<b>行政機関等</b>	<b>事業者</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>釧路市</li> <li>阿寒観光協会まちづくり推進機構</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>阿寒アドベンチャーツーリズム</li> <li>阿寒湖温泉旅館組合</li> <li>前田一步園財団</li> <li>阿寒アイヌ工芸協同組合</li> <li>自然公園財団</li> </ul>			
<b>住民関係者</b>	<b>住民関係者</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>(株)ホテル御前水</li> <li>鶴雅リゾート(株)</li> <li>ニュー阿寒ホテル</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>釧路信用金庫</li> <li>阿寒観光汽船(株)</li> <li>阿寒湖郵便局</li> </ul>			

## エリアマップ



冬季  
氷上ワカサギ釣り



プロガイド  
湖北の森



新規ガイド  
ボッケ遊歩道





夜のアイヌコタン



ガイド共通白湯山展望台

## 2. 課題

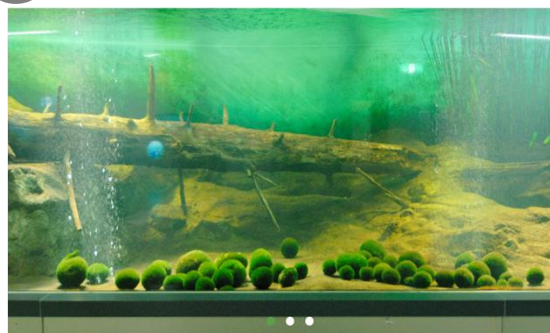
	主な現状・問題点	影響を受けている主な対象
1. 人手不足	<ul style="list-style-type: none"> <li>ネイチャーガイド不足により、事前の予約などガイドツアー体験のハードルが高い</li> <li>プロガイドの人材に加え、ローカルガイド、ネイチャーガイドといったライト層向けのガイドも不足している</li> <li>上記によって、観光地として提供できるコンテンツの幅が限定的になり、特定の観光地(温泉街)への観光客の集中が見られている</li> </ul>	観光客
2. マナー問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>観光客が、観光エリアを訪れる野生動物(小鹿等)に餌付けすることで、野生動物が山に戻れなくなり、生態系へ悪影響を及ぼし、追いかける、噛みつかれる等住民とトラブルになっている</li> <li>夜間など、危険な湖畔に近づき湖へ落下する観光客が存在</li> <li>世界自然遺産を目指すまりもの絶滅危機など環境保全への理解が浅い</li> <li>ごみのポイ捨て問題が発生(観光客・地域住民共に)</li> </ul>	観光客・住民
3. 二次交通問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>阿寒湖温泉の大きな課題である二次交通をはじめ受入環境を整えていく為の持続可能な観光計画の具体的なロードマップの策定が出来ていない状況</li> </ul>	住民・観光客 地域事業者

## 1 多様な訪日外国人旅行者へのガイド対応



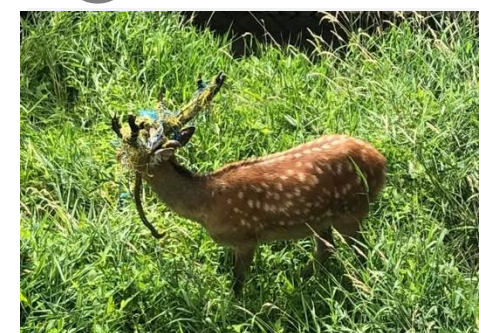
阿寒ガイド

## 2 環境汚染によるまりもの減少・小型化



阿寒湖のまりも

## 3 野生動物への接触



角に漁網が絡み気性の荒くなったエゾシカ

### 3. 背景・要因

#### 主な背景・要因

1. **ガイド人材の獲得の仕組み・育成環境の整備不足**
  - ・ 新規でガイド人材を獲得する仕組みや、新規/既存ガイドに向けて講座を提供する等、ガイドを育成するための環境整備が不十分である

---

2. **観光客のマナーの欠如**
  - ・ 観光客の間で、野生動物への餌付けが生態系に悪影響を及ぼす行動であるということが十分に理解されていない

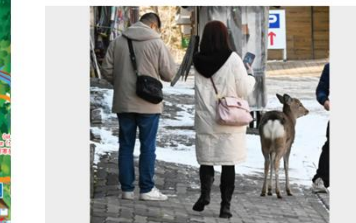
---

3. **ゴミ問題**
  - ・ 阿寒湖畔に設置していたゴミ箱を、処理代の高騰やコロナ禍を経て「ゴミを宿泊施設に持ち帰っていただく運用」となったことから撤去したため、町中にゴミ箱の数が少ない
  - ・ ゴミを宿泊施設に持ち帰っていただくという運用が観光客に周知されていない



▼阿寒湖温泉街に降りてきた鹿が問題になったニュース記事

シカに餌を与えないで 阿寒湖温泉街に大量出没、人慣れも感染症や事故懸念  
 2024年11月29日 21:45(1月30日 12:20更新)  
 自然！生きもの フォロー



▼人が寝泊まりするキャンプエリアに入り込む鹿①



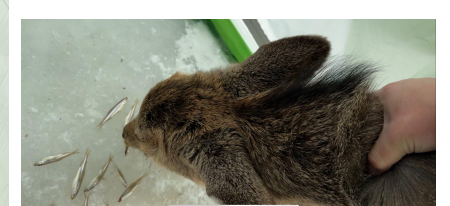
▼人が寝泊まりするキャンプエリアに入り込む鹿②



▼人が寝泊まりするキャンプエリアに入り込む鹿③



▼人が釣ったワカサギを狙う鹿



# 4. 対策の概要

目指す姿	観光客・地域住民・事業者が相互的に支えあう世界・日本を代表する国立公園の温泉観光地（阿寒湖温泉）
KGI	(指標)「観光客と地域の関係性が良好と感じる」、 「環境被害(獣害含む)・負荷がコントロールされていると感じる」 来訪者満足度・市民満足度・事業者満足度
	目標値： - 来訪者満足度：18%(R7年度) / 21.5%以上(R8年度)、 - 市民満足度：60%(R7年度) / 70%以上(R8年度)、 - 事業者満足度：60%(R7年度) / 70%以上(R8年度) 実績値：来場者満足度20.4% (R5年度)

- ・ 阿寒の自然を守りつつ、観光の受入を行うための事業を設計
- ・ 観光客へのマナー啓発体制を強化し、受入環境の整備を図る

## ■ 補助事業の実施概要

### マナー違反行為の防止・抑制

#### ① 阿寒の自然を守る啓蒙事業

##### 【背景・課題】

- ・ 観光客が、観光エリアを訪れる野生動物へ餌付けすることにより、小鹿が山に戻れなくなり、生態系へ悪影響を及ぼし、追いかけられる、噛みつかれる等住民とトラブルになっている
- ・ 夜間など、危険な湖畔に近づき湖へ落下する観光客が存在
- ・ 世界自然遺産を目指す「まりも」の絶滅危機など環境保全への理解が浅い

##### 【事業内容】

- ・ 観光客へのマナー周知としてのPR活動を検討。マナー啓蒙のポストカードの制作と配布。

### 地域全体の観光地域づくりに関わる事業

#### ② 阿寒湖の持続可能な観光策定事業

##### 【課題・背景】

- ・ DMOの取組における優先課題として、「国立公園にふさわしい受入環境整備」と「二次、三次交通（ラストマイル）の整備」を掲げているが、現状は協議検討が出来ていない状況

##### 【内容】

- ・ 阿寒観光協会として策定中の“阿寒湖温泉2030”に加えて、阿寒湖温泉地区が持続可能な観光魅力向上に繋げるために、持続可能な観光地づくりの視点を入れ込んだ具体的なロードマップの策定や具体施策の詳細を計画
- ・ 上記の実施に向けて現状の課題整理やあるべき姿を考える地域協議会の継続開催
- ・ 上記の実施に向けて観光客・地域住民・関係事業者向けアンケートを実施



- 補助事業①
- 補助事業②
- 補助事業③
- 補助事業④

### 需要の分散・平準化

#### ③ ネイチャーガイドの新規人材獲得と育成事業

##### 【背景・課題】

- ・ 阿寒湖温泉には観光協会協会のプロガイドが6人、内訳はフリーガイドが2人、宿所属ガイドが4人のため、年間約60万人以上の観光客をご案内するのが厳しい状況。そのため、事前予約の競争率の高さや、ガイド実施が可能な日時などの柔軟性が失われていることから、ツアー参加できる観光客の数が限られてしまい、観光客増加に伴うツアー需要の増加には耐えられないと予測される。

##### 【内容】

- ・ 阿寒プロガイド・知床財団による①野生動物への配慮研修、②阿寒湖地区ガイド研修の実施。
- ・ 新規獲得・育成したガイドが実施する汎用性が高い募集型ツアーの開催数の増強。
- ・ ツアー内での、国の特別天然記念物である「まりも」等、希少な阿寒の自然についての啓蒙実施。

### 需要の分散・平準化

#### ④ ネイチャーガイド専属プロガイドのスキルアップ事業

##### 【課題・背景】

- ・ 阿寒湖温泉には観光協会協会のプロガイドが6人、内訳はフリーガイドが2人、宿所属ガイドが4人という状況。年間約60万人以上の観光客が来訪し、ラグジュアリー層など“質”を求める観光客も増加することが想定されるが、現状は多種多様なニーズに応じた対応もできない状況。

##### 【内容】

- ・ ①JALから学ぶおもてなし研修 ②JALから学ぶ異文化コミュニケーション の2講習の実施
- ・ 本格的なネイチャーガイドを求める観光客に対して満足度の高い、最適なガイドを行うことで、高単価でのツアー催行を行い、多くの観光客を抱えなくとも今と売り上げが変わらない持続的な観光地経営を目指し、オーバーツーリズムを防ぐ。(参加者が少人数でも地域経済が成立すれば、人為的な要因で起こる自然破壊が軽減でき、季節や地域を分散することにより、更なる自然保護に寄与することができる。)

# 【本地域における取組マップ】

凡例：

- OT抑制・未然防止が必要な現状・問題点
- 現状・問題点が発生している箇所
- 現状・問題点への対応策
- 対応策を実施する箇所
- 本地域における取組（補助事業名）

- プロガイドにより、これまで対応ができていなかった季節/地域/国籍いずれかに対するのツアーを実施する
- 新規ガイドを育成・全体数を増やし、より多くの観光客にツアー参加してもらう。ツアーでマナーを周知し、地域ルールを守って観光できる人を増やす

**KGI：「観光客と地域の関係性が良好と感じる」、「環境被害(獣害含む)・負荷がコントロールされていると感じる」**

①来訪者満足度、②市民満足度、③事業者満足度  
測定手法：アンケート  
現状値：来場者満足度20.4%（令和5年度）  
・目標値：  
①21.5%以上（令和8年度）  
②70%以上（令和8年度）

**ネイチャーガイド専属プロガイドのスキルアップ事業**

**KPI：本格ネイチャーガイドの実施件数・参加人数**  
令和7年度 5件・10名  
令和10年度 1000名

**ネイチャーガイドの新規人材獲得と育成事業**

**KPI：マナー啓蒙や環境保全に関する説明を受けてガイドツアーに参加した観光客数/ツアーを実施したガイドの稼働人数**  
令和7年度 20名/4名  
令和10年度 2,000名/40名

・ 夜間など、危険な湖畔に近づき湖へ落下する観光客が存在する  
・ 世界自然遺産を目指すもりの絶滅危機など環境保全への理解が浅い

人流（観光客）の分散化を実施

**阿寒の自然を守る啓蒙事業**

**KPI：**  
①マナー理解度(to 観光客)  
令和7年度 25%以上  
令和8年度 50%以上  
②啓蒙ポストカードの配布数  
令和7年度 15万枚  
令和8年度 15万枚

・ 観光客へ野生動物や自然に対するマナー周知活動（啓蒙ポストカード配布等）を実施する（実施位置は本枠+小さいオレンジ枠箇所）

**阿寒湖の持続可能な観光策定事業**

**KPI：計画策定状況・事業実施**  
令和7年度 計画の策定完了（100%）  
令和8年度 「阿寒の自然を守る啓蒙事業」の観光客理解度目標値の達成

・ ローカル/プロガイドの不足により、事前の予約などガイドツアー体験のハードルが高い。そのため、観光地として提供できるコンテンツの幅が限定的になり、特定の観光地(温泉街)への観光客の集中が見られる

・ 観光客が、観光エリアを訪れる野生動物に餌付けし、戻れなくなった野生動物による住民被害が発生している

・ 二次交通をはじめ受入環境を整えていく為の持続可能な観光計画の具体的なロードマップの策定が出来ていない



## 5-①. 主な取組（詳細）

## マナー違反の防止・抑制

補助事業①	阿寒の自然を守る啓蒙事業		
事業目的	阿寒湖温泉のある国立公園の自然を末永く、自然に近い状態で守り、継続的に観光客の方に堪能してもらえること		
実施主体	株式会社北海道博報堂	実施期間	令和7年9月～令和8年2月

## 【背景・課題】

- 観光客が、観光エリアを訪れる野生動物へ餌付けすることにより、小鹿が山に戻れなくなり、生態系へ悪影響を及ぼし、追いかける、噛みつかれる等住民とトラブルになっている
- 夜間など、危険な湖畔に近づき湖へ落下する観光客が存在
- 世界自然遺産を目指す「まりも」の絶滅危機など環境保全への理解が浅い

## 【事業内容】

- 自然動物・まりも・湖への立ち入りなど阿寒湖温泉での過ごし方のルールが分かるポストカードの作成。
- ルールの詳細：①野生動物に触れることや餌付けをすることの禁止、②ポイ捨ての禁止
- ルール設定の背景：
  - 令和6年度に、山から下りてきた小鹿に対し、観光客が餌付け等を行うことで、小鹿が人慣れして山へ帰らなくなり、人の手で捕獲することとなった事象があった
  - 地域内にゴミ箱が少ないこともあり、ごみのポイ捨て問題が発生。湖の中にもゴミが浮かんでいることがあり、生態系に悪影響を及ぼしている
- 日本語・英語・繁体字・韓国語多言語対応できるよう制作
- 理解度確認のためアンケート調査を実施

## 【推進ポイント】

- 野生動物による被害が減少し、ゴミのポイ捨てなどによる自然や生態系への影響が減少することによって本来の自然が戻り、三者の満足度が向上すると共に、住民生活の問題点が緩和される。
- 効果測定手法：①観光客向けアンケートにて実施、②当該補助事業者にて取りまとめ
- 測定時期：①②両方9月～2月想定



観光エリアに降りてきた小鹿



人馴れしている様子的小鹿

# 5-①. 成果及び今後に向けて

## 補助事業①

## 阿寒の自然を守る啓蒙事業

### 令和7年度事業の目標 (KPI)

指標名 ①マナー理解度(to観光客)/②啓蒙ポストカードの配布数

#### 令和7年度に掲げた目標値

- ①25%以上/②20万枚

#### 事業の成果/目標の検証結果

- ①100%/②13万枚 (令和8年2月時点)

### 成果の詳細

- 来訪者が阿寒の自然の価値と保全の必要性を学べる導線 (ポストカード) を20万枚整備し、13万枚配布できた。
- 配布方法1では、直接配布する際にポストカードに関するWEBアンケートを実施できた (QRコードを印刷・設置し、カード配布時に声掛け)。
- マナーの周知・誘導策を多言語で展開できた。
- 観光協会だけでなく、地域事業者等の関係者間の連携体制を整え、啓蒙活動の実施を事業者間で共有・推進できた。
- 自然への負荷低減と来訪者満足度の向上に資する状態を実現できた。

### 令和7年度事業を踏まえた継続課題

#### 1 ポストカードの継続配布

- マナー啓蒙の手段として、令和7年度事業はポストカードを作成・配布したが、より多くの観光客にマナー啓蒙するためにはポストカードという形が適切なのか、また、ポストカード等を配布する場合などのタイミング・場所 (イベント等を含む) が適切なのか検討が必要



ポストカードに使用した画像イメージ1



ポストカードに使用した画像イメージ2

### 令和8年度以降の方針

#### 1 マナー啓蒙の在り方検討

- マナー啓蒙は阿寒湖として永続的に実施していくべき事項という認識のため、ポストカードの配布等の手法検討も含め、マナー啓蒙の在り方を検討する

#### 2 レスポンシブルツーリズムに関する情報周知

- レスポンシブルツーリズムに関するHPや動画を作成する

#### 3 マナーの事前周知に関する検討

- 旅マエ強化の観点で、宿泊予約時からマナー周知を行う周知導線を整備する

#### 4 訪日外国人旅行者向けのマナー周知施策の検討

- 予約完了画面もしくは確認メールに、自然保護とマナーの要点を簡潔に表示し、詳細ガイドへリンクする多言語の専用ページを用意する

地域全体の観光地域づくりに関わる事業

補助事業②	阿寒湖の持続可能な観光策定事業		
事業目的	地域の目指す姿の実現に向けて、観光客の更なる増加に備えたデータをもとにした持続可能な観光計画の策定と地域協議会の運営の実施		
実施主体	株式会社北海道博報堂	実施期間	令和7年9月～令和8年2月

**【背景・課題】**

- DMOの取組における優先課題として、「国立公園にふさわしい受入環境整備」と「二次、三次交通（ラストマイル）の整備」を掲げているが、現状は協議検討が出来ていない状況

**【事業内容】**

- 優先課題である「国立公園にふさわしい受入環境整備」と「二次、三次交通（ラストマイル）の整備」を含め、地域として取り組むべき課題を再度整理し、取組方針の検討を実施
- 阿寒観光協会として策定中の“阿寒湖温泉2030”に加えて、阿寒湖温泉地区の持続可能な観光魅力向上に繋げるために、持続可能な観光地づくりの視点を入れ込んだ具体的なロードマップの策定や具体施策の詳細を計画
- 上記の実施に向けて観光客・地域住民・関係事業者向けアンケートを実施



地域協議会の実施

**【推進ポイント】**

- 地域協議会の開催や観光客・地域住民・関係事業者向けのアンケートの実施を通じて持続可能な観光計画を策定することにより、関係者から地域住民まで納得できる持続可能な観光の将来像を実現することができ、地域住民と観光客、地域事業者の満足度向上につながる。

補助事業②

阿寒湖の持続可能な観光策定事業

令和7年度事業の目標 (KPI)

指標名

計画策定状況・事業実施

令和7年度に掲げた目標値

- 計画の策定完了 (100%)

事業の成果/目標の検証結果

- 3回に及ぶ協議会実施、持続可能な観光計画やロードマップの策定完了 (100%)

成果の詳細

- 本事業の主軸である「地域協議会」は3カ月ごとに計3回実施した。
- アンケートでは観光客1名、地域住民6名、事業者4事業者の回答があった。
- 「飲食店不足」、「住居不足」と「マナー問題（ごみのポイ捨てや痩せ動物の餌やり）」の内容が主に上がり、供給サイド（人・住居）など課題を認識でき、それを踏まえて協議会にて意見を交わし、阿寒の持続可能な観光計画書に反映することができた。
- 事業当初は、課題である「国立公園にふさわしい受入環境整備」および「持続可能な観光地づくり」について協議が未着手であった。
- 3回の協議会を通じて、課題を各関係者間で理解が深まり、共通認識を持つことができ、方向性と役割の明確化により推進体制を確立した。
- さらに、持続可能な観光に資する施策を含む9の施策案と短・中・長期の実行ロードマップを策定し、令和8年度に向けた合意形成を完了した。
- これにより、協議不能状態を解消し、持続可能な観光実現に向けた具体的な実行準備が整った。

令和7年度事業を踏まえた継続課題

1 取組の予算・資金等の検討

- 計画内で記載した取組を実装する段階における、予算・資金関係の検討余地が残る

令和8年度以降の方針

1 計画内で置いた施策・取組案の実現性・優先度の検討

- 分野別分科会にて、本協議会で取りまとめた施策・取組案を基礎資料とし、各施策案の実現性および優先度の検討を進める

2 協議体の継続活用

- 本事業で整備した協議体と施策の蓄積を活用し、令和8年度以降の具体的なオーバーツーリズム対策の実装へ結び付ける

# 5-③. 主な取組（詳細）

## 需要の分散・平準化

補助事業③	ネイチャーガイドの新規人材獲得と育成事業		
事業目的	観光客に阿寒湖温泉周辺の自然を堪能してもらう為のガイドを増強し、多種多様なニーズや更なる観光客の増加に耐える体制を構築。 ネイチャーガイドの増強により、阿寒湖温泉周辺の新たなコンテンツ創出つなげる。よって、地域内でのコンテンツの偏りを防ぎ、観光客の受入分散を促進し、受入環境の強化に繋げる。		
実施主体	株式会社北海道博報堂	実施期間	令和7年9月～令和8年2月

### 【背景・課題】

- 阿寒湖温泉には観光協会協会のプロガイドが6人、内訳はフリーガイドが2人、宿所属ガイドが4人のため、既存ガイドの出番が集中し、年間約60万人以上の観光客をご案内するのが厳しい状況。そのため、観光客増加に伴うツアー需要の増加には耐えられないと予測される
- 事前予約の競争率の高さや、ガイド実施が可能な日時などの柔軟性が失われていることから、ツアー参加できる観光客の数が限られてしまっている

### 【事業内容】

- 阿寒プロガイド・知床財団による①野生動物への配慮研修、②阿寒湖地区ガイド研修の実施を通じた新規ガイドの育成
- JTBツーリズム事業本部地域交流チーム担当マネージャー、内閣府地域活性化伝道師の鈴木守氏や ATTAアンバサダーのSIRI高田茂氏を招聘して講習実施

### 【推進ポイント】

- 汎用性が高い募集型のツアーを開催。より多くの観光客を温泉街から外に分散させることができる
- ガイドツアー参加者を増やすことで、国の特別天然記念物である「まりも」等、希少な阿寒の自然について理解が深まり環境問題への貢献や、観光客の国立公園に対する理解が深まり、KGIに結びつく



ガイド研修講師の知床財団



ガイド研修講師の阿寒プロガイド 講習チラシを作成し、個別の声かけ等も実施

## 阿寒湖ガイド 未来創造セミナー2025

国・世界の視点から学ぶ、持続可能なガイドの未来  
2025年12月18日(木)10:00～12:50  
まりむ館2階 ユーカラ・トーラサンペ  
第1部 | 10:00～11:20

### 国がすすめる観光政策×他地域事例

講師：鈴木 守 氏  
(JTBツーリズム事業本部地域交流チーム担当マネージャー、内閣府地域活性化伝道師)

- ガイド育成において国がすすめる観光政策
- 他地域のガイドツアーから見る阿寒での可能性
- 自分でもできるガイドとは



### 第2部 | 11:30～12:50

### アドベンチャートラベル×阿寒湖ガイド

講師：SIRI高田 茂氏 (ATTAアンバサダー)

- アドベンチャートラベルとは
- 持続可能なガイドとは
- 阿寒湖ガイドの目指すところ



こんな方におすすめ  
✓ 国の方針やトレンドを知りたい方 ✓ 他地域の事例を知りたい方  
✓ 阿寒湖の魅力をもっと伝えられるガイドになりたい方

参加申し込み・お問い合わせ：  
阿寒アドベンチャーツーリズム株式会社 柳（やなぎ）  
TEL：0154-65-7121

## 5-③. 成果及び今後に向けて

## 補助事業③

## ネイチャーガイドの新規人材獲得と育成事業

## 令和7年度事業の目標 (KPI)

## 指標名

マナー啓蒙や環境保全に関する説明を受けてガイドツアーに参加した観光客数／ツアーを実施したガイドの稼働人数

## 令和7年度に掲げた目標値

- 20名/4名

## 事業の成果/目標の検証結果

- 22名/2名 (令和8年2月時点)

## 成果の詳細

- 新規ガイド養成として実施した研修に4名が参加し、内2名がガイドとして稼働、22名の観光客がガイドツアーに参加した。  
(研修に関するお声がけ先：宿泊施設（各施設にてオリジナルの簡易ツアーを実施しているケースがあるため）、阿寒湖エリアの地域おこし協力隊)
- 外部講師（JTB、ATTAアンバサダー等）の知見を取り入れ、ガイドに必要な知識と阿寒湖温泉周辺におけるガイドの現状を講習を通じて共有したことで、新規ガイドの育成に資する環境を整備した。

## 令和7年度事業を踏まえた継続課題

## 1 継続的な研修の開催・ガイドになるまでの仕組みの整備

- 初回講習後の定期研修、OJT、などの継続的な品質管理の構築があるとより安定的なガイド供給が可能と考える



研修講師の様子①



研修講師の様子②

## 令和8年度以降の方針

## 1 研修参加者の増強に向けた工夫検討

- 新規ガイド向けの講習を定期的で開催し、レベルに応じて内容を選択できるようにするなど、より多くの方が参加しやすい工夫を行う

## 2 研修受講者のフォローアップ体制の整備

- 初回講習後のフォローアップを実施し、講習→OJT→試験の流れを構築するとともに、評価基準の一覧（講習の理解度やガイドとしての説明力(専門用語をかみ砕いで言い換えられるか)等を自身/第三者が評価できる評価軸となる資料）やチェックリストを整備する